

家畜衛生だより 平成26年3月号

紀北家畜保健衛生所

電話 073 - 462 - 0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739 - 47 - 0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

電話 0735 - 58 - 1481

【有毒植物に注意してください】

近年、飼料費が高騰し、畜産経営を圧迫しています。少しでも飼料コストの低減を図ろうと、野草などを粗飼料がわりに給与しているのをよく見かけます。しかし、なかには牛が食べると中毒を起こす植物がありますので、注意が必要です。



【キョウチクトウ】

街路樹、園芸植物に広く利用されていますが、強心配糖体を多く含んでいます。下痢・食欲不振などの中毒症状を起こし、死亡する場合があります。

キョウチクトウ以外にも、イチイ、レンゲツツジ等、庭木として利用される植物には毒性を持つものが多くあります。



【ギシギシ】

可溶性のシュウ酸塩を多く含み、消化管の炎症を起こすほか、シュウ酸が体内でカルシウムと結合し、不溶性のシュウ酸カルシウムを形成することで、カルシウム欠乏を起こします。また、シュウ酸カルシウムの結晶は、腎臓、脳に障害を来すことがあります。



【 ヨウシュヤマゴボウ 】

紅紫色の茎は2mほどになり、初夏から秋にかけて総状花序を作り、紅紫色の果実をつけます。有毒物質は全草に含まれていますが、根に多く、果実には少ないといわれています。誤食した牛では、流産、昏睡、痙攣、下痢、嘔吐などの症状が現れます。



【 アジサイ 】

アジサイは広く庭園などで栽培されているユキノシタ科の落葉低木で、梅雨時に特徴的な花を咲かせます。中毒症状として下痢、呼吸数・心拍数の増加、骨格筋の強い収縮などがあり、葉や茎には青酸配糖体の一種が含まれると報告されています。

ここで紹介した植物以外にも有毒植物は多くあります。動物衛生研究所HP「写真で見る 家畜の有毒植物と中毒」では家畜の有毒植物についての情報が数多く紹介されていますのでご参照ください。

⇒http://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease_poisoning/plants/index.html

基本的に、牛は自生している有毒植物を好んで食べる事はありません。しかし、刈草として給与したり、空腹の場合は食べてしまう恐れがあります。「わからないものは与えない」を基本とした給与をよろしく願います。また、刈草収集の際、ビニール等のゴミの混入にも十分注意して下さい。

気になる点や不明な点がありましたら、家畜保健衛生所にご相談ください。